

尋常小學修身書 卷一

和装本

9  
10  
1

9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5



小學珍良書 卷一

十四

圖水垢藏類





文部省檢定濟

伯爵副島種臣 閱  
伯爵東久世通禧 著

尋常小學修身書卷一

東京 國光社圖書部

門 仁 8  
號 10  
卷 1

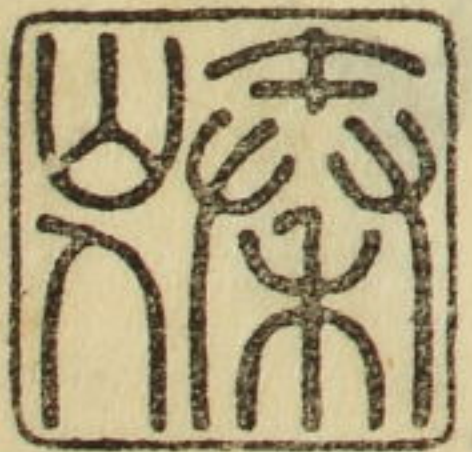
法 則 之 本 義  
每 物 之 本 義

國光社藏版



夜乃初健月  
西交喜辰心女  
毛男水

可沉本毛身六月  
中七日大正以先德





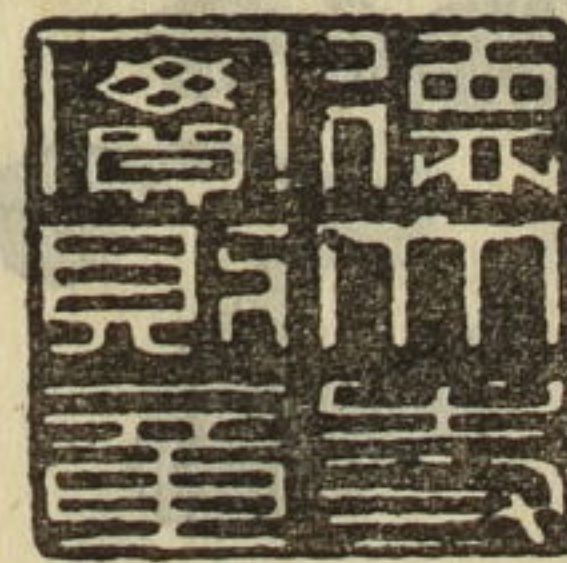
仁心 忠孝 大德 功高 德厚 功高 德厚 功高 德厚

仁心 忠孝



明治二十五年壬辰六月

侍從長勳爵大臣三原武敏



序

奎運隆盛學政一新雜取於漢土西洋之學焉而洋學諸科可資以助我文明者多存乎智育至如其所謂德育則斷乎不可採也蓋建國之體有異故其所道非吾所謂道也若加諸我教科則其與邦國之大經相背馳而其弊將至不



可救矣雖然喜新厭舊常人之情也此  
以往多有浸淫於彼甘葑菲及下體而  
不之察者豈非惑之甚者哉  
明鑒在上 聖詔一下以大明道義之  
所在以使臣民知其所率由焉 聖訓  
煌煌明如日月於是乎數學知方不復  
迷岐矣雖然幼者心志未定形體未實

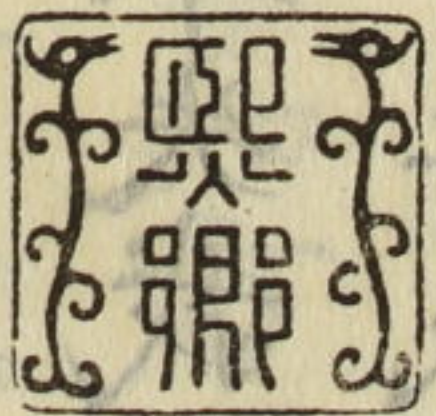
則養正之道不可不最重焉而其要在  
明 聖旨之所在以使其不失我仁義  
忠孝特性之美也頃者竊有所感於時  
勢之變未嘗不日思匡濟之道于此  
忘其淺陋拾古今事實編此書以為訓  
蒙之楷梯抑修身者在善讀而實行之  
豈可止於譜記哉讀者无以其近忽之



則其於為成德達材之資未必無小補  
云爾

明治二十五年二月

伯爵東久世通禧撰并書



小學修身書卷之一

東久世通禧著

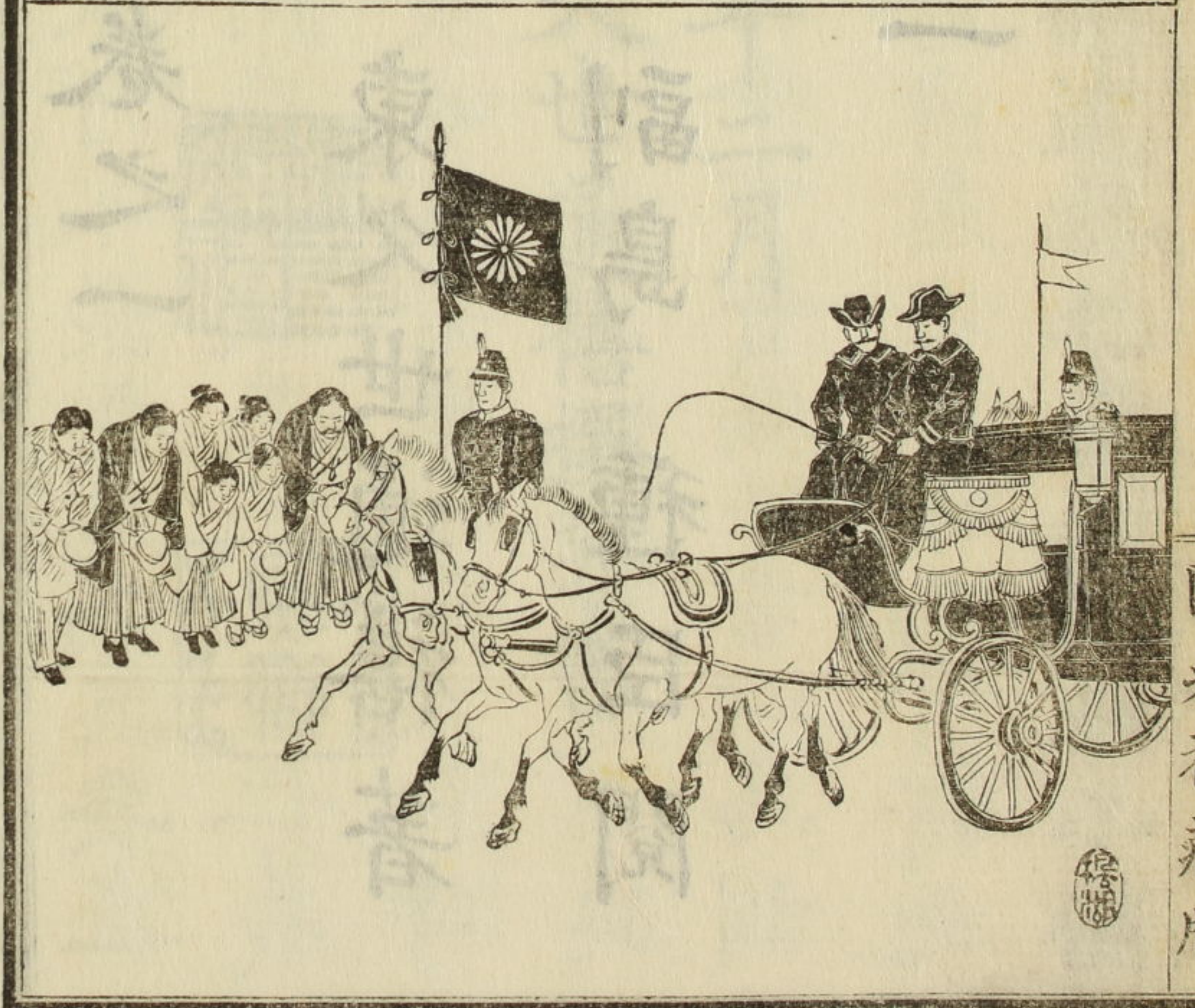
副島種臣閱

第一



きみ 君

たみ 民



おや 親

こ 子





あに 兄

たごうと 弟



榎田

あね 姉

いもうと 妹



榎田



第二

あひま 杖 弟 杖 兄

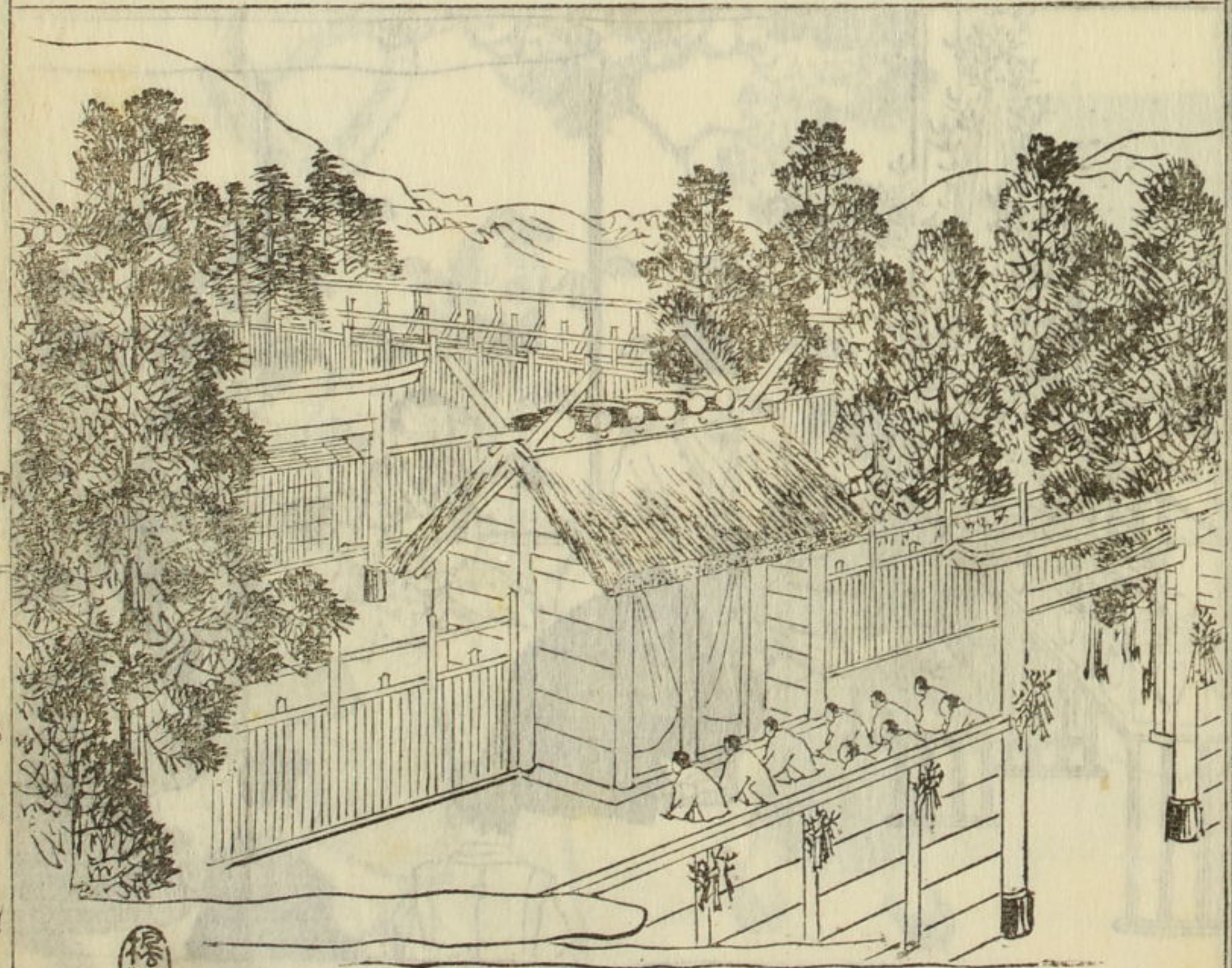


かみ 神

髮 天

ひと 人

未 兄





せんぞ 先祖

しんるる 親類



國洲社藏版

ごいより 老人

こども 小兒



五 國洲社藏版

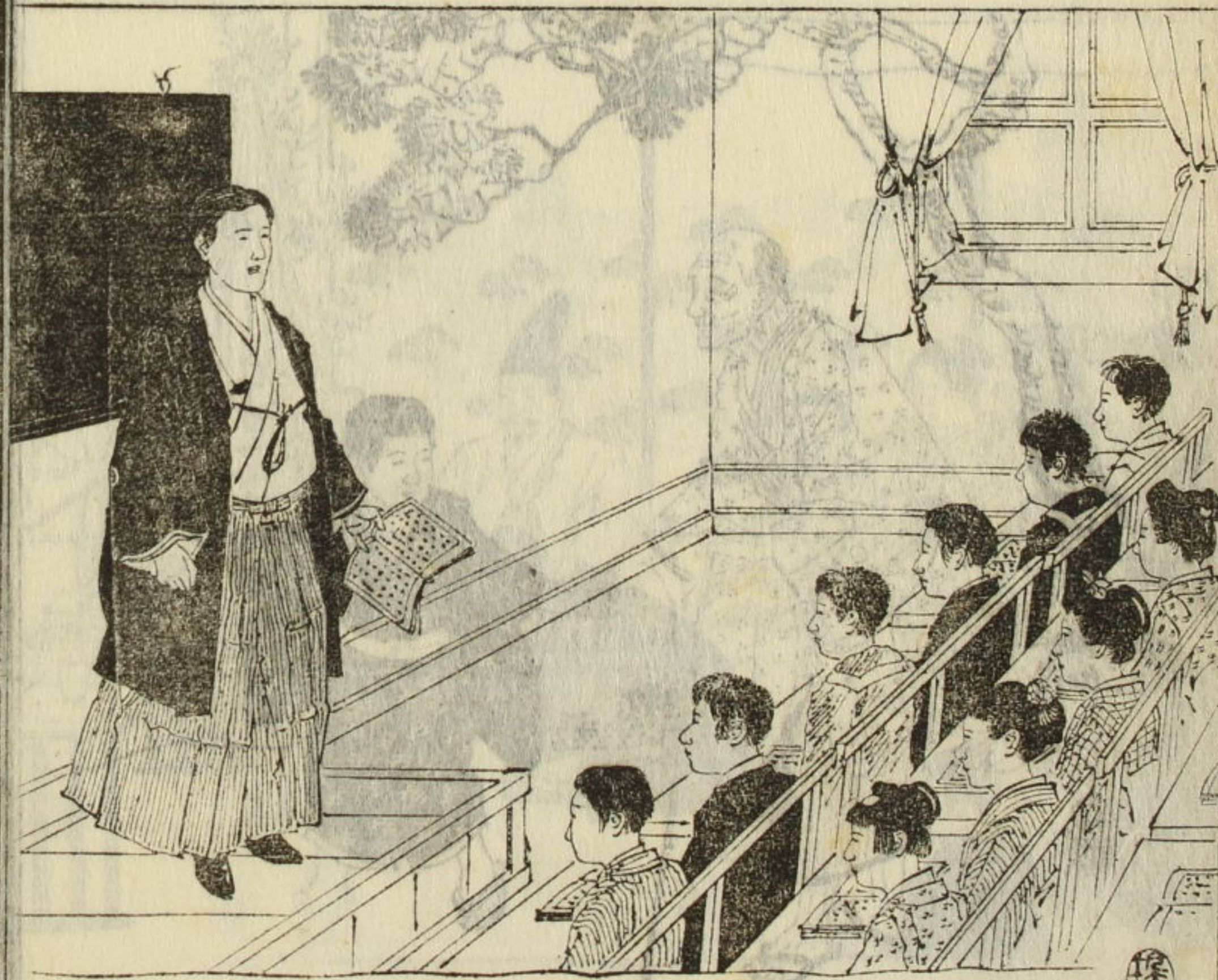


せんせい

先生 小兒

ほういり

朋友 夫人



第三

天皇陛下

天皇陛下

天皇陛下

天皇陛下



てんわうへいか 天皇陛下

第三

くわうごうへいか 皇后陛下

くわうたいいでんか 皇太子殿下

しんわうでんか 親王殿下

大司

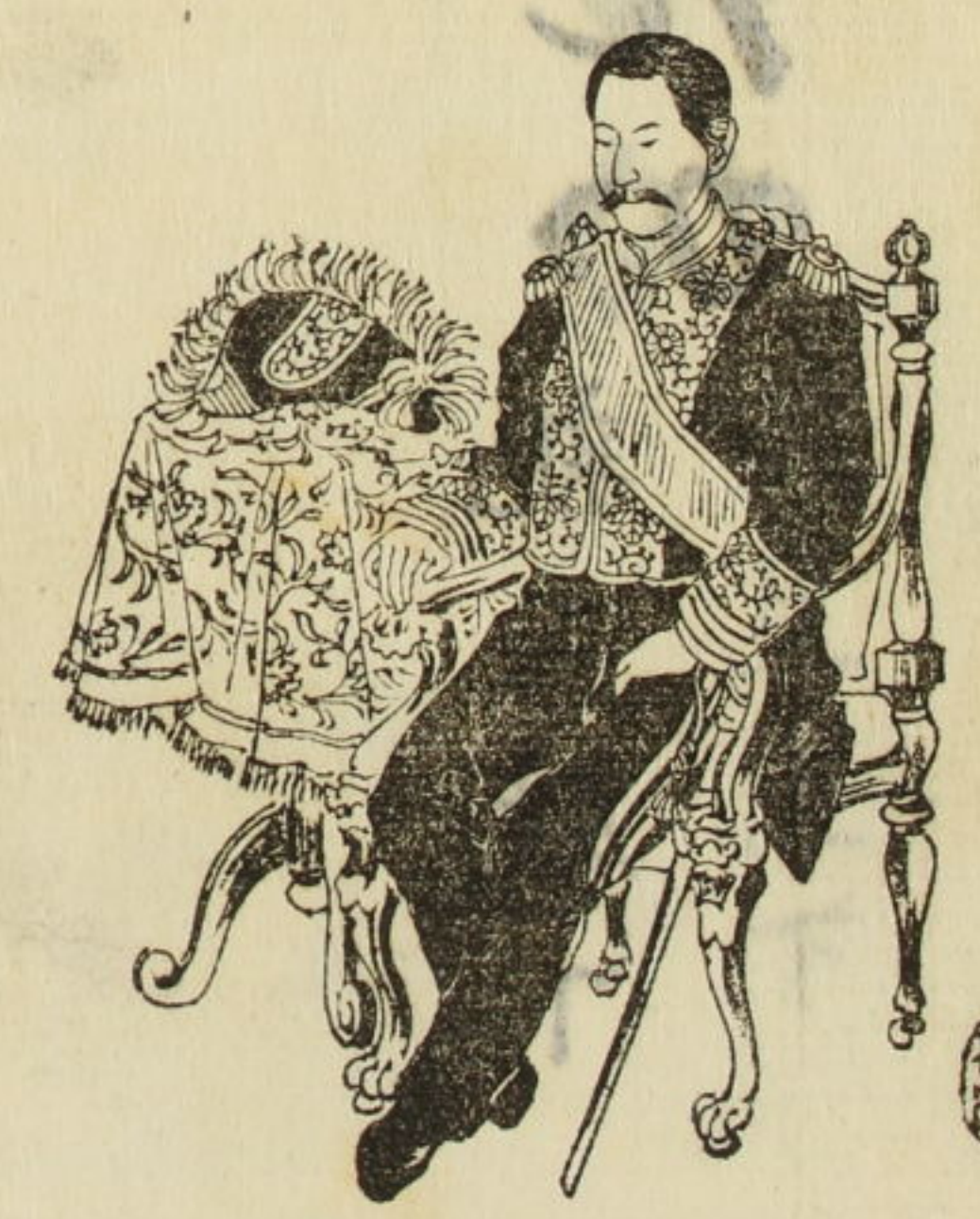


だいじん

大臣

たいやう

大將

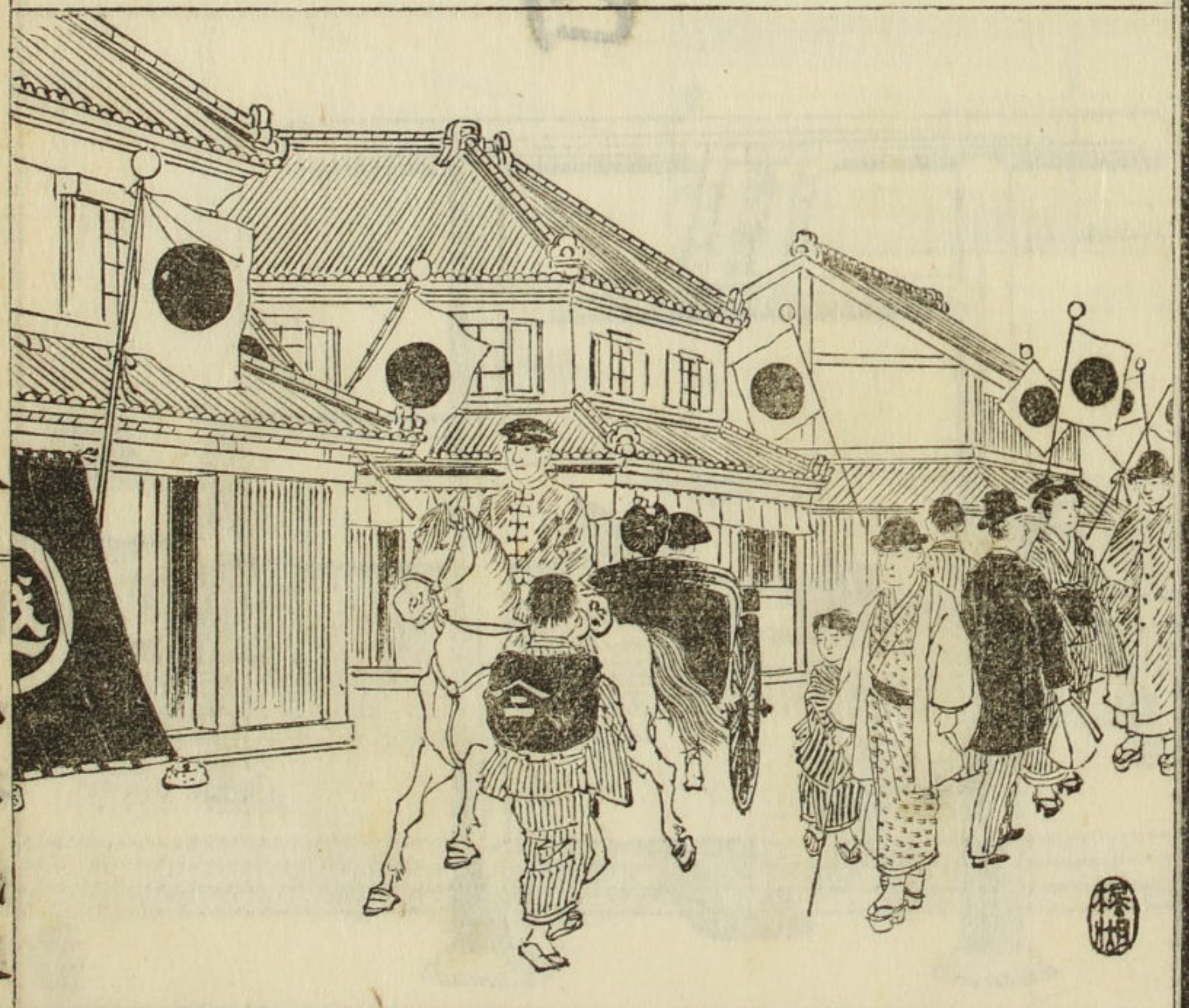


くに

國

いへ

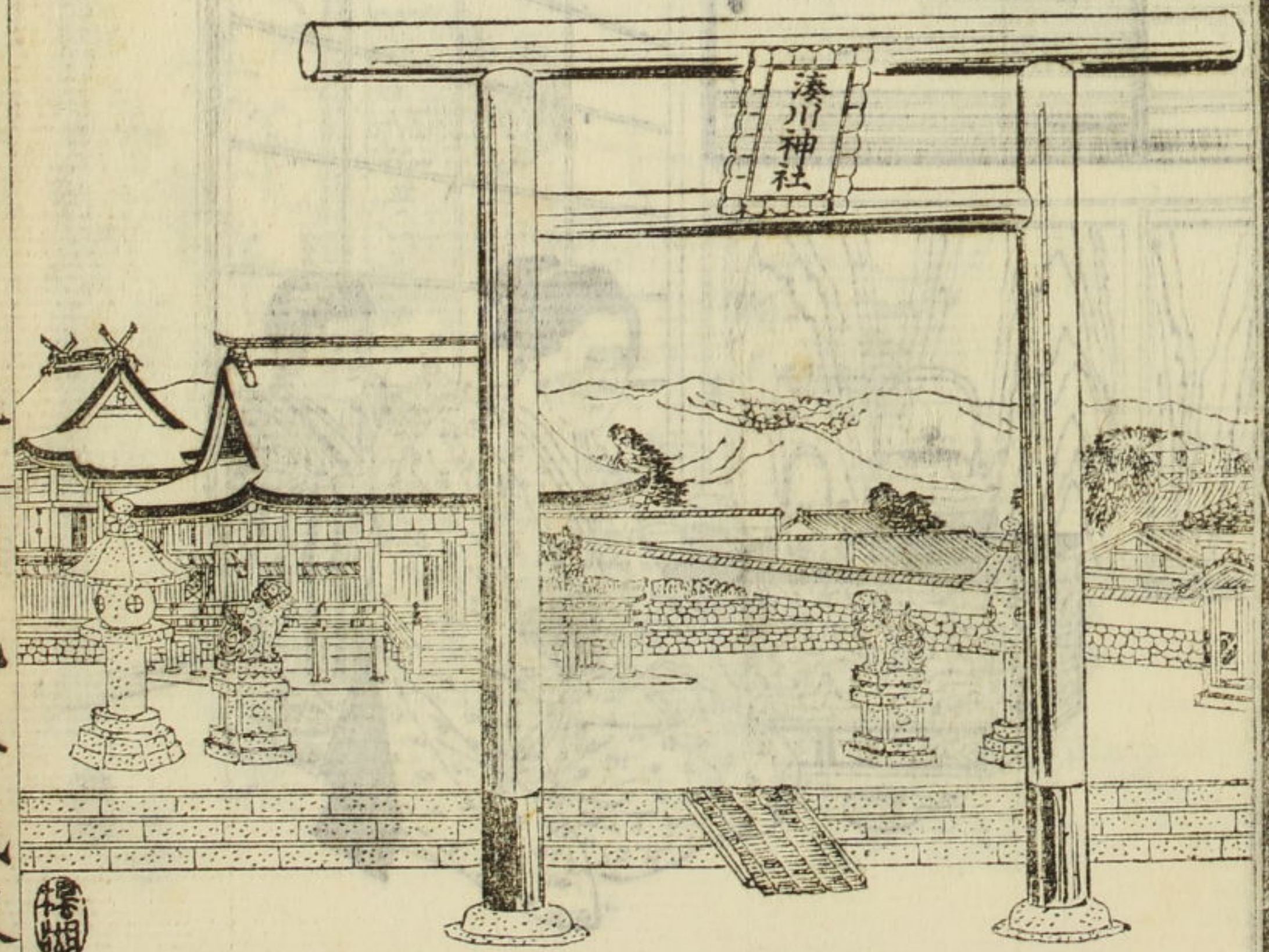
家





第四

○きみに  
は、  
ちゆうぎ  
を  
つくせ。





○おやに

は、

かうかう

せよ。



環湖

○きやう

だいには、

しんせつ

にせよ。



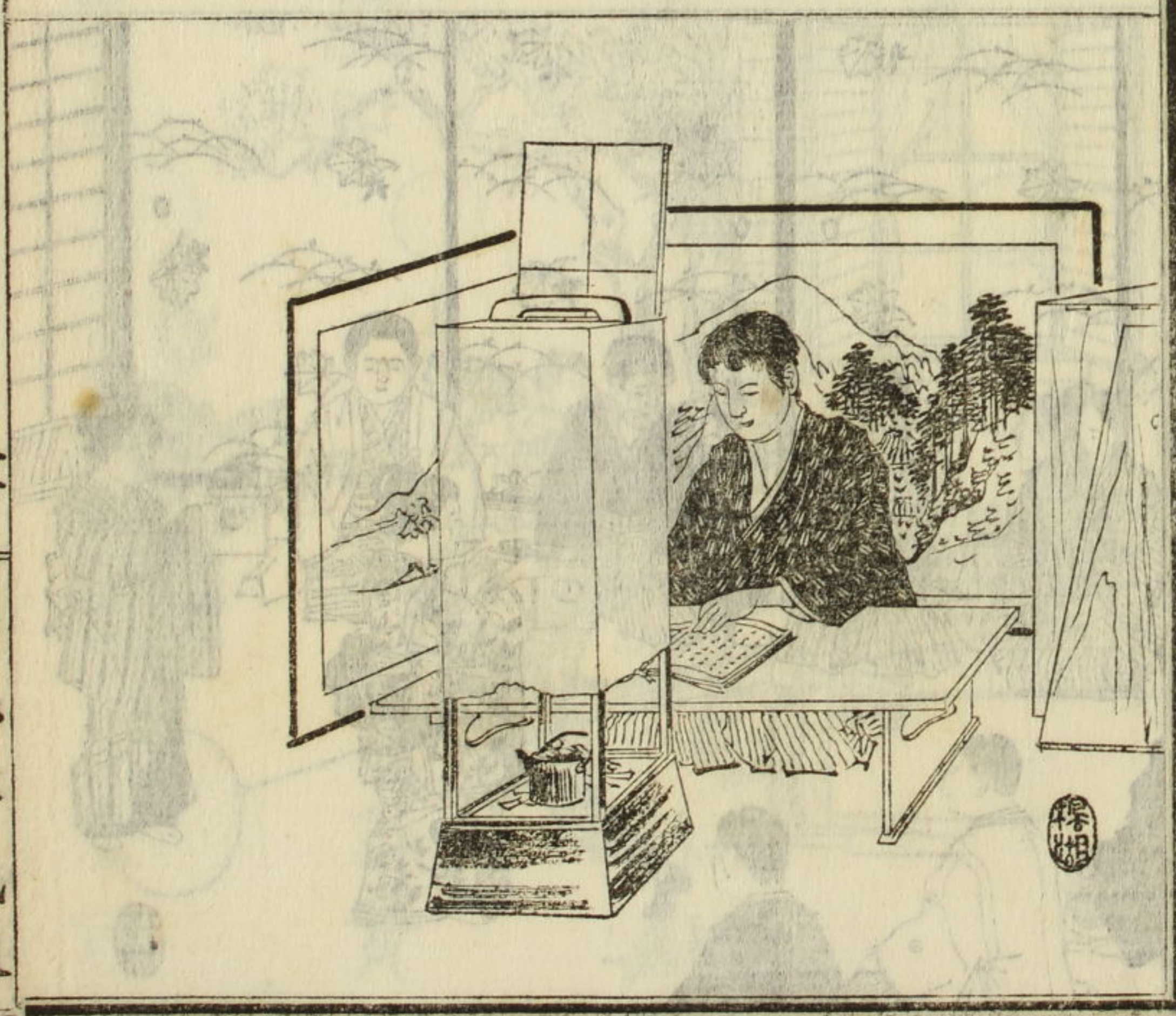
環湖



○ほういろう  
には、  
しんどつ  
に  
まじはれ。



○べんまな  
うして、  
しよもの  
をよめ。





○わたなり

くはめて

ぎやうぎ

たぐーく

すべーい。



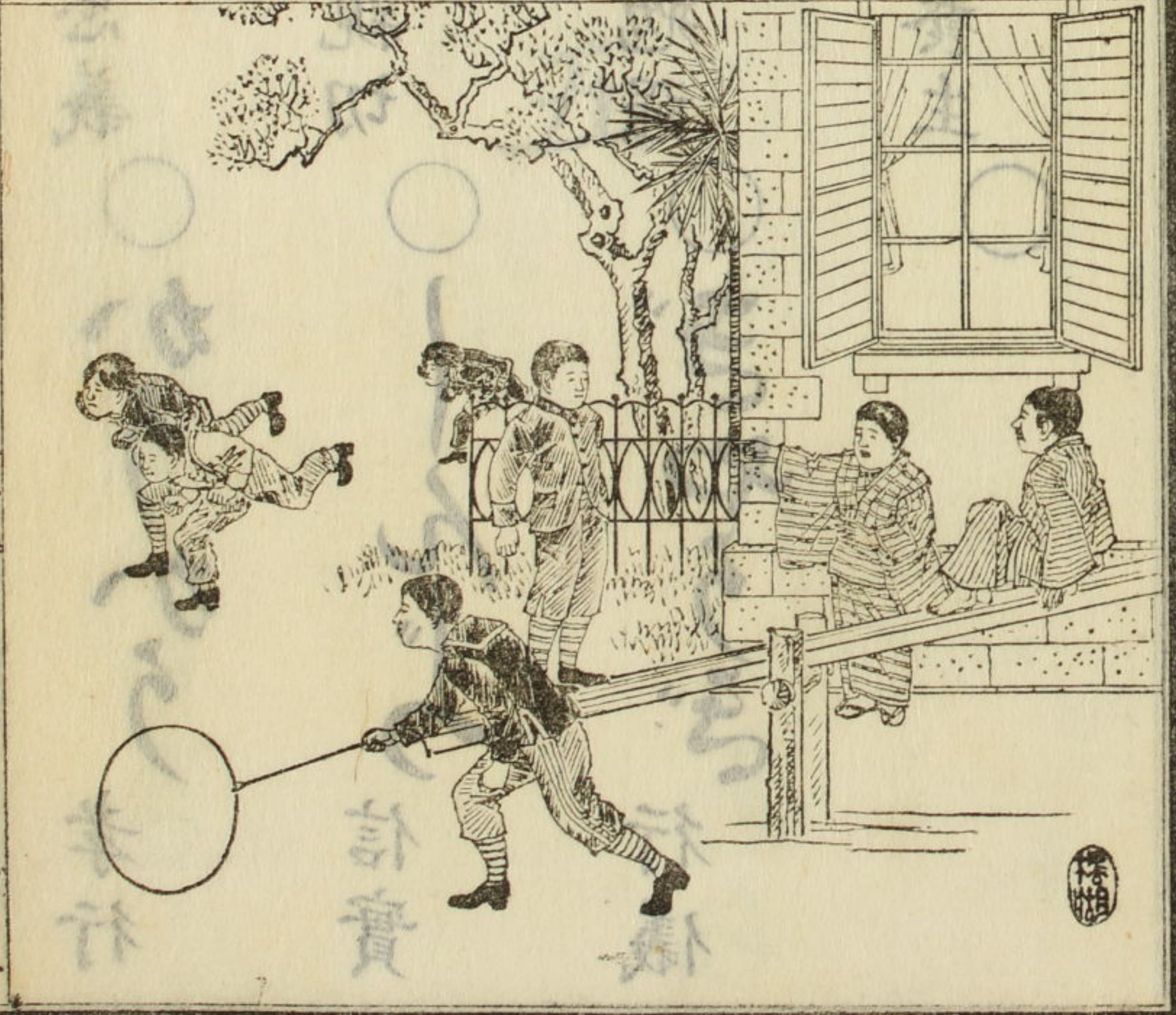
○やうごや

うして

からだ

をつよ

くせよ。





○ちゆうぎ 忠義

○かうかう 孝行

○しんせつ 親切

○しんどう 信實

○べんきやう 勉強

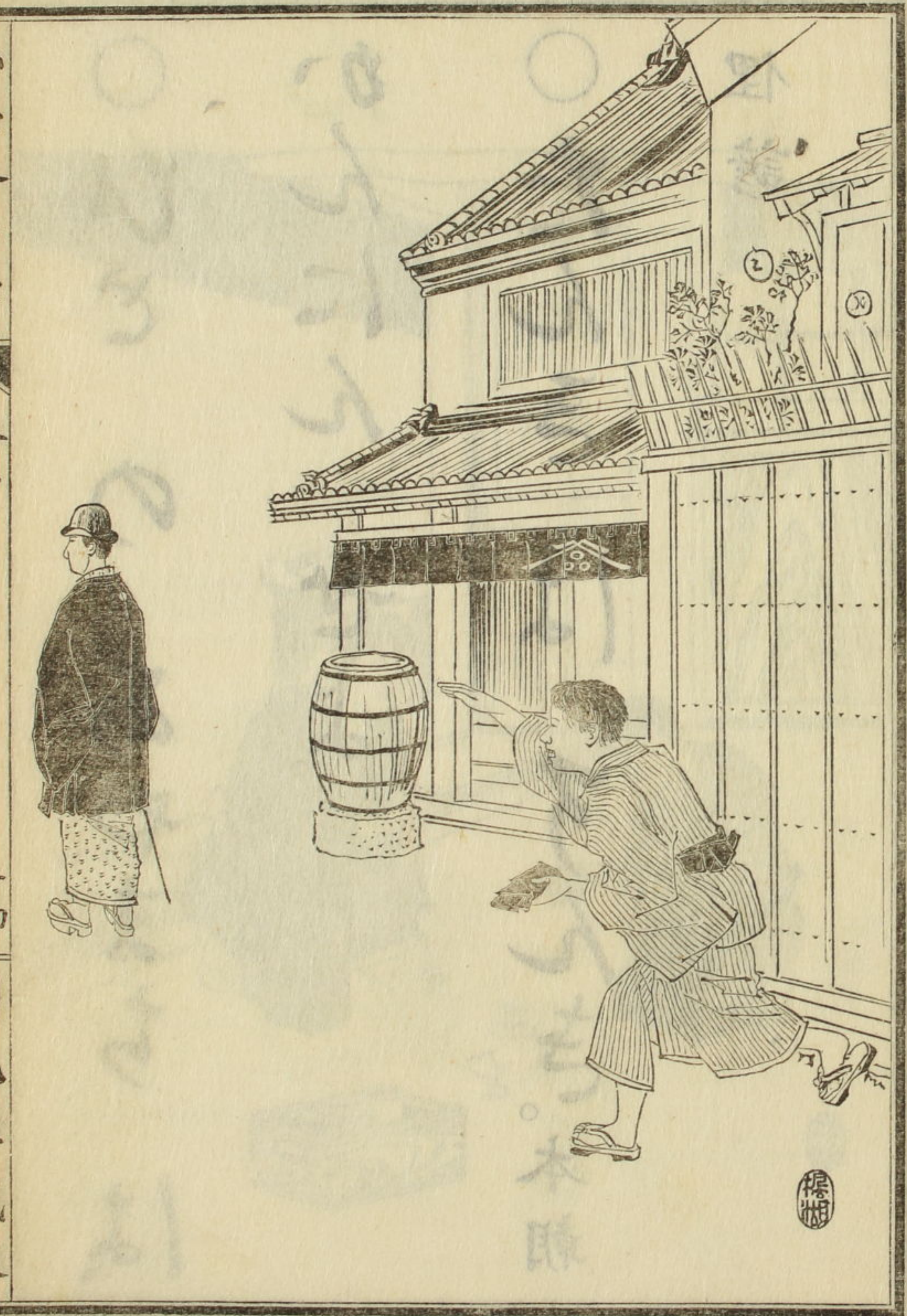
○ぎやうぎ 行儀

○やうじやう 養生

第五



○ひとは、いやうぢきを  
 にすべし。  
 ○かくすことは、あら  
 はる。本朝俚諺





○ひとのあやまち は

かんにんせよ。

○たんきはろんき。本朝

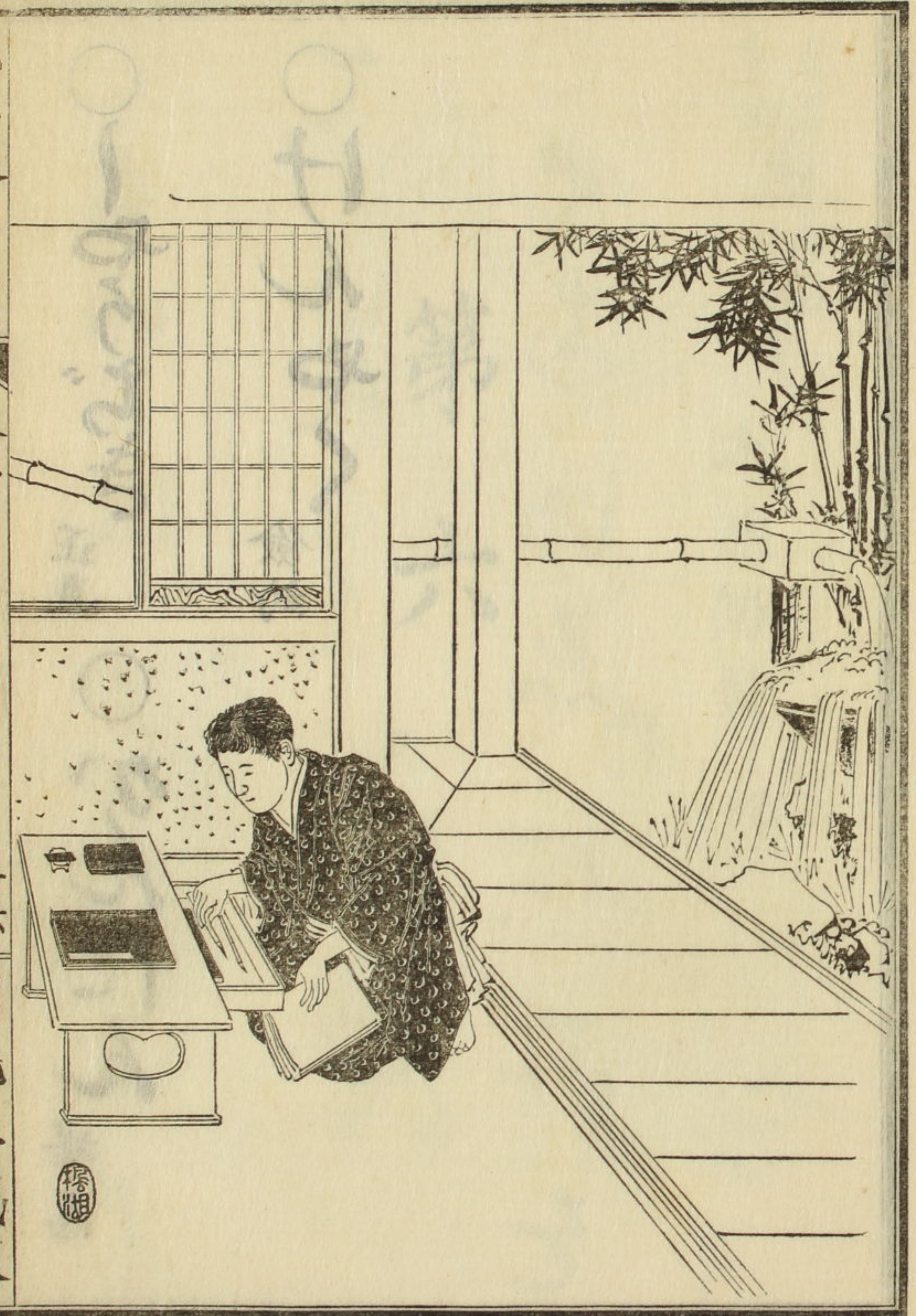
俚諺





○かみやふでをけ  
 んやくすべし。  
 ○ドふふんはこぼる。

諺草



印



○一からちぎ

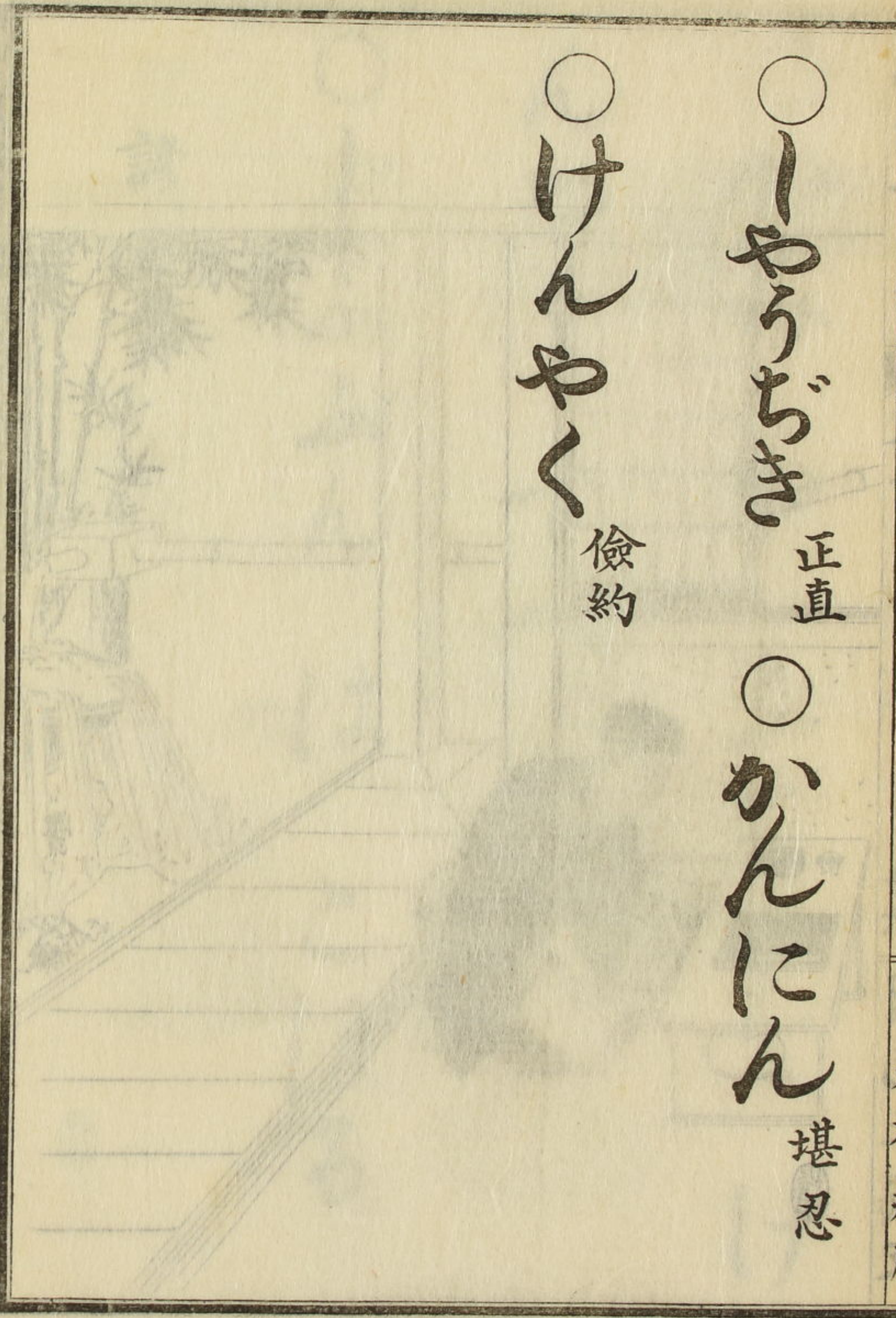
正直

○かんにん

堪忍

○けんやく

儉約



第六

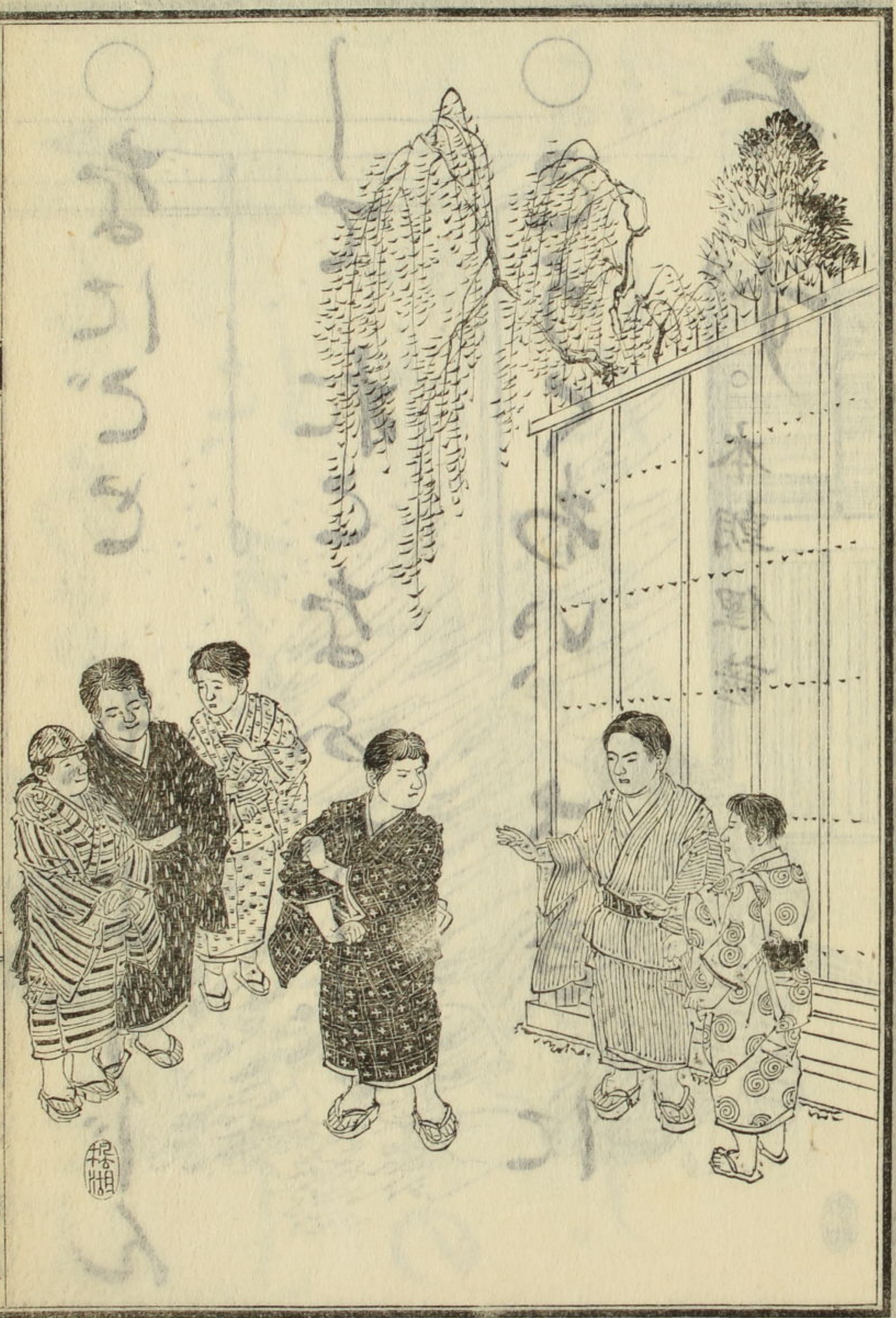
○このま。木障り。○このま。木障り。○このま。木障り。○このま。木障り。○このま。木障り。



○ものは、ゑんりよー  
ていへ。

○くち ゆゑに、みを

はたす。本朝俚諺



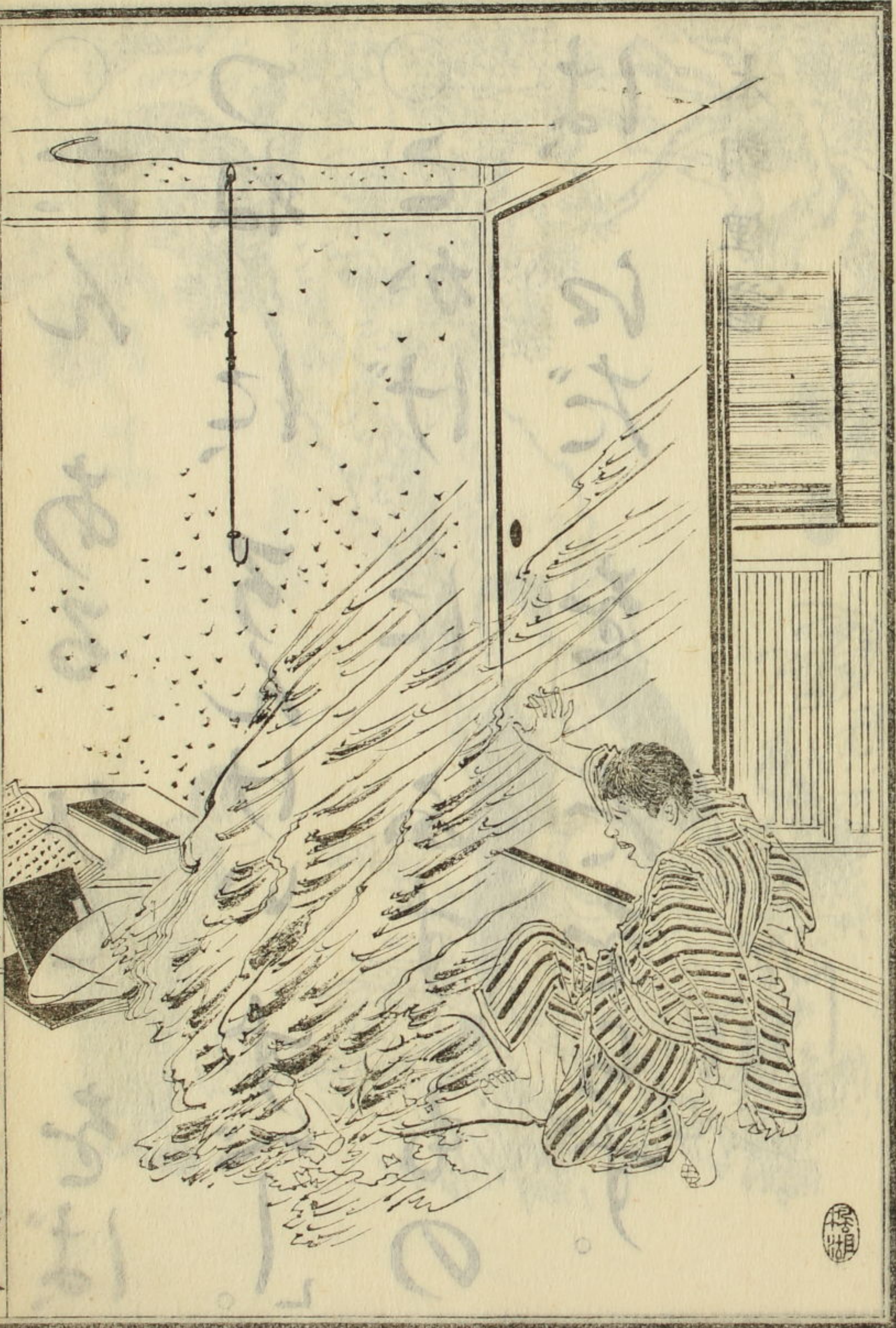


○なにごと も、ようどん

しておこなふべし。

○こうくわい、おきに

たしず。本朝俚諺





○たんにあるひとをば  
 つねに、ろんけいすべし。  
 ○こかげにふすもの  
 は、いだをたをらず。

本朝俚諺

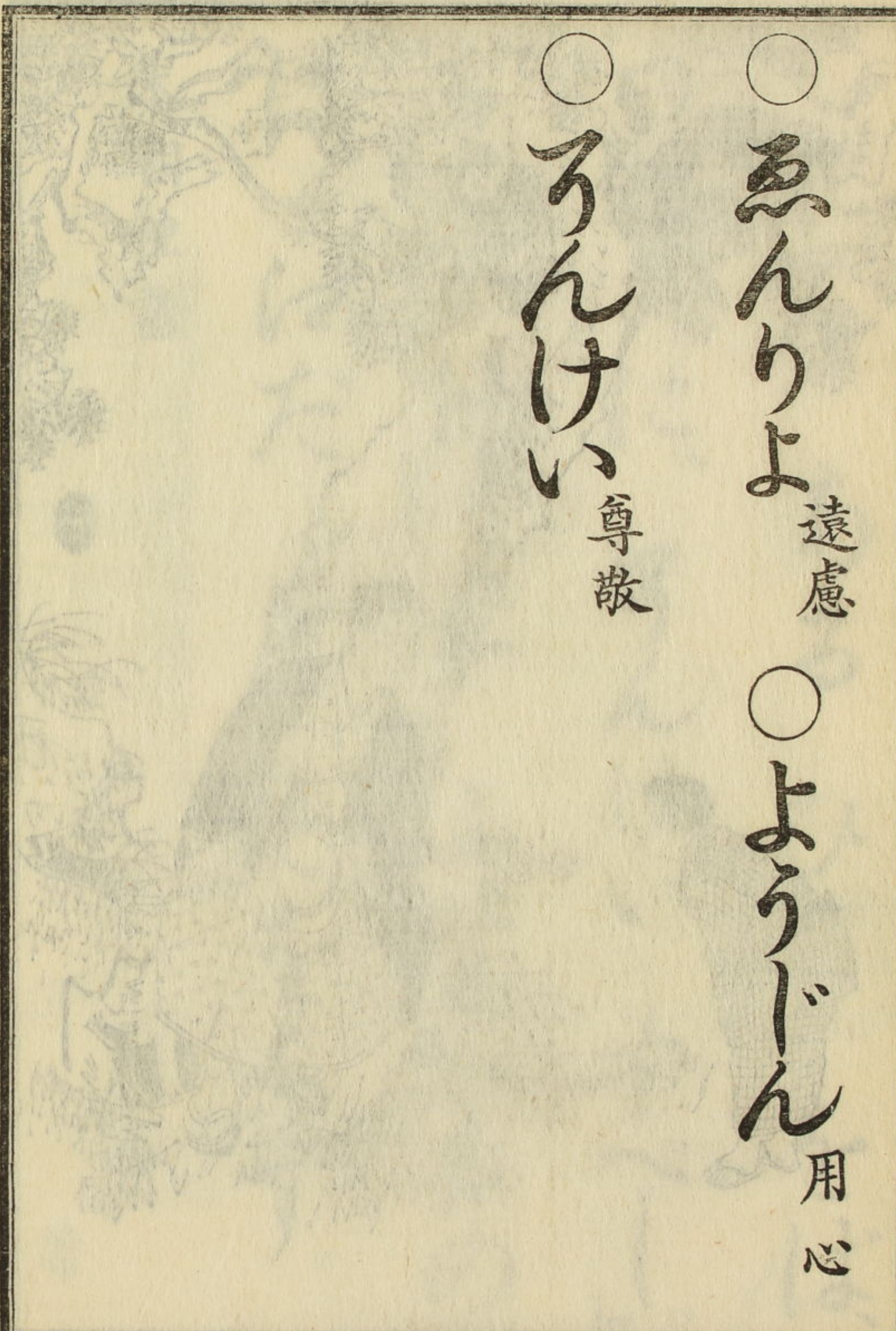




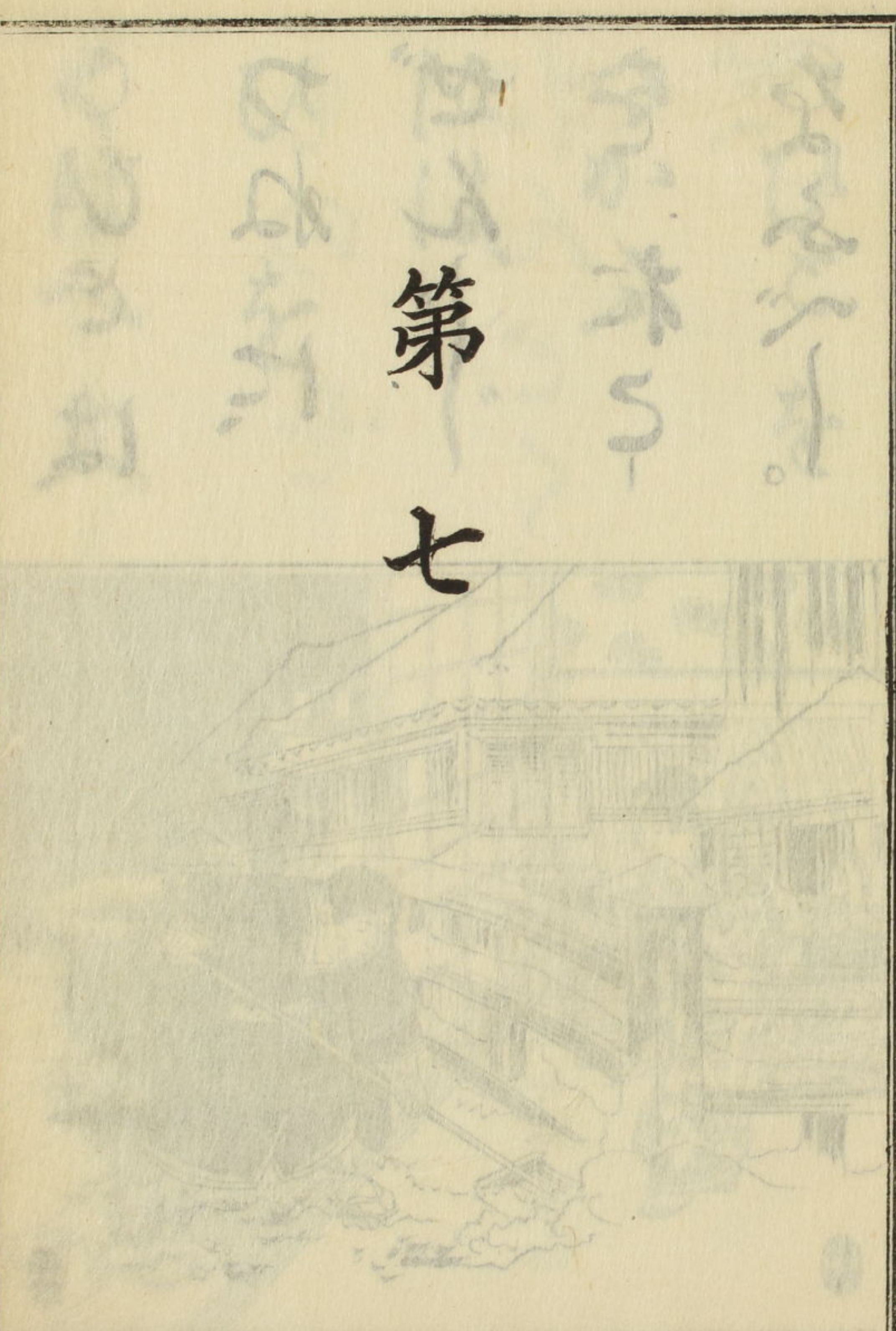
○ ちんりよ 遠慮

○ ようじん 用心

○ ろんけい 尊敬

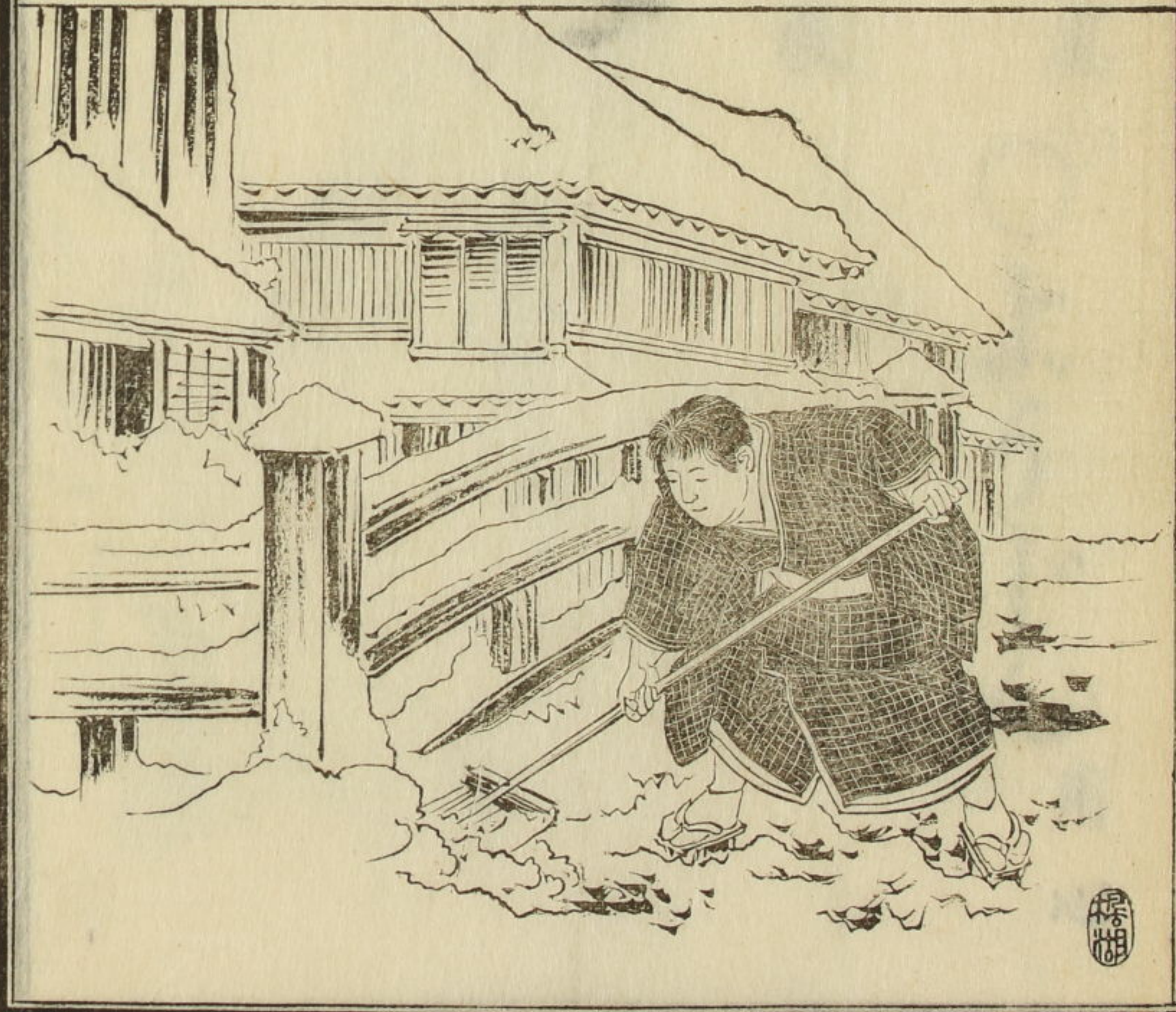


第七

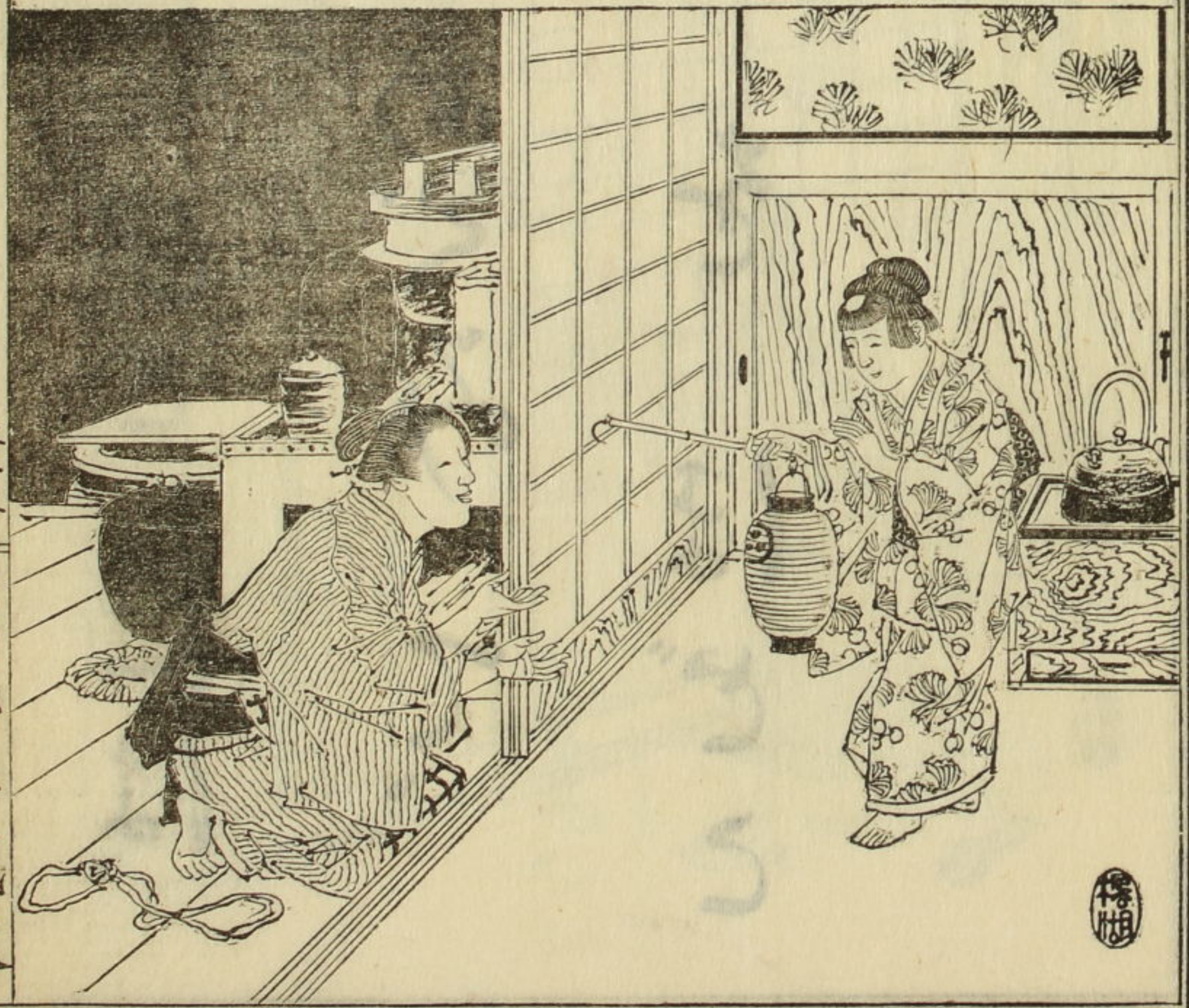




○ひとは  
つねに  
せんど  
をたこ  
なふべし。

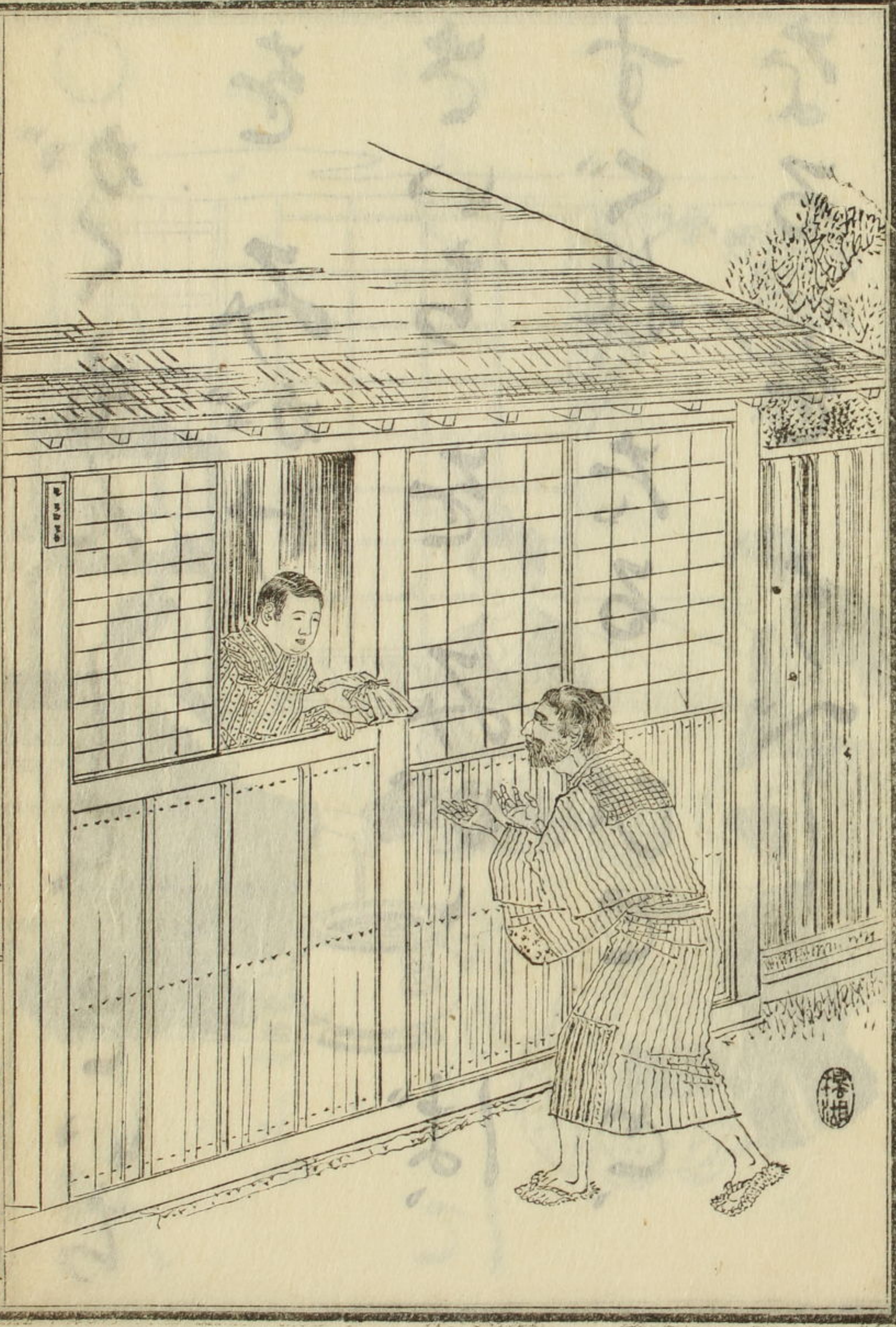


○ひとを  
つかふ  
には、  
ひを  
くはへよ。





○まづ一き ひと には  
 ものを めぐみ て、  
 おんごく を ほごこ  
 せ。



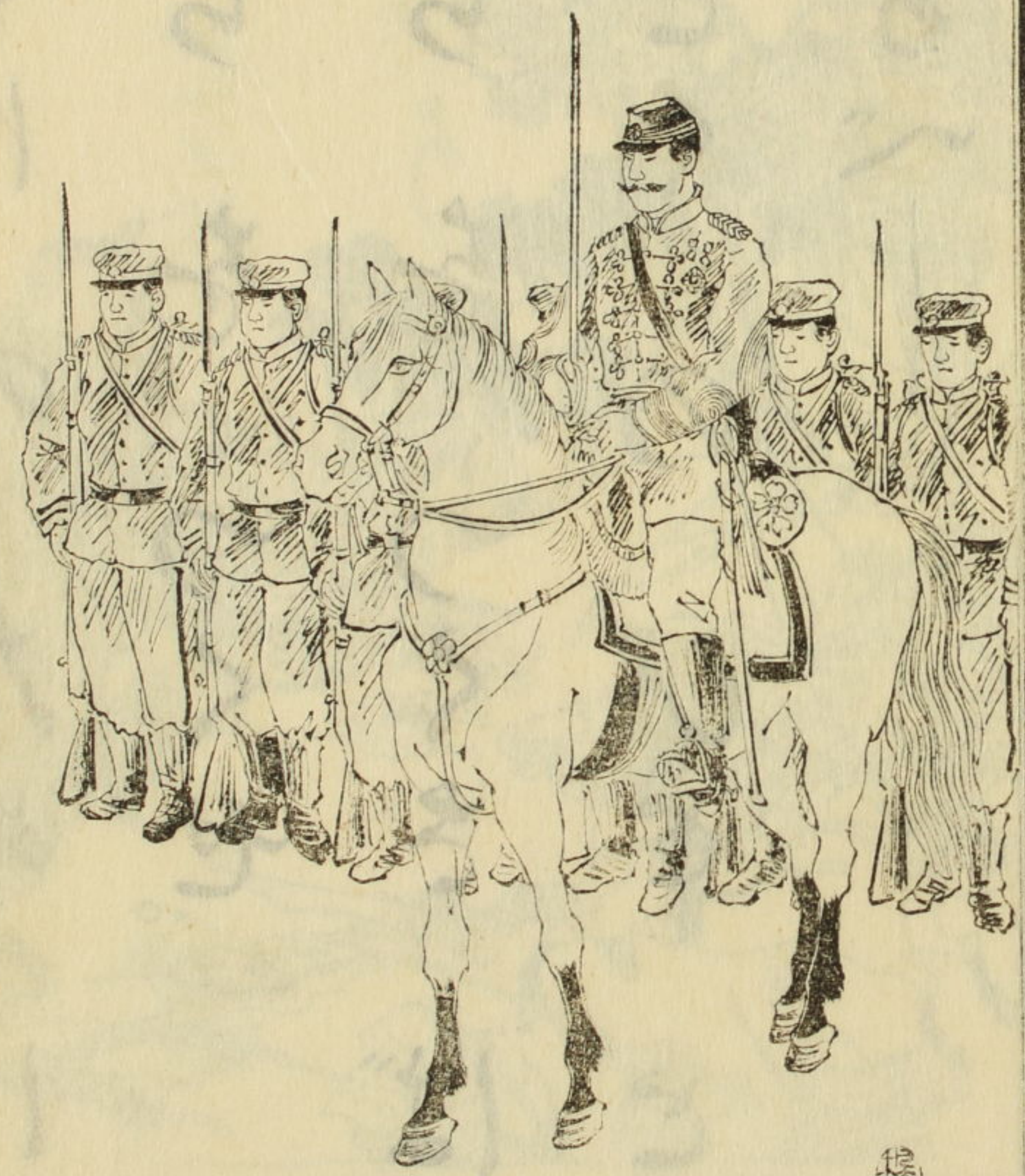


○がくもんして、さいち  
をみかけ。  
さいちをみが、ば  
すぐれたるひとと  
なるをうべし。





○うんどうしてからだ  
 を、すこやかにせよ。  
 からだを、すこやかに  
 せば、ぶゆうのひと  
 となる。



胡



○みくにのために  
 ちからをつくせ。  
 ちからをつくさば  
 あいこくのひとと  
 いはるべし。





○ぜんト 善事

○ト ひ

慈悲

○ねんとく 恩徳

○さいち 才智

才智

○ぶゆう 武勇

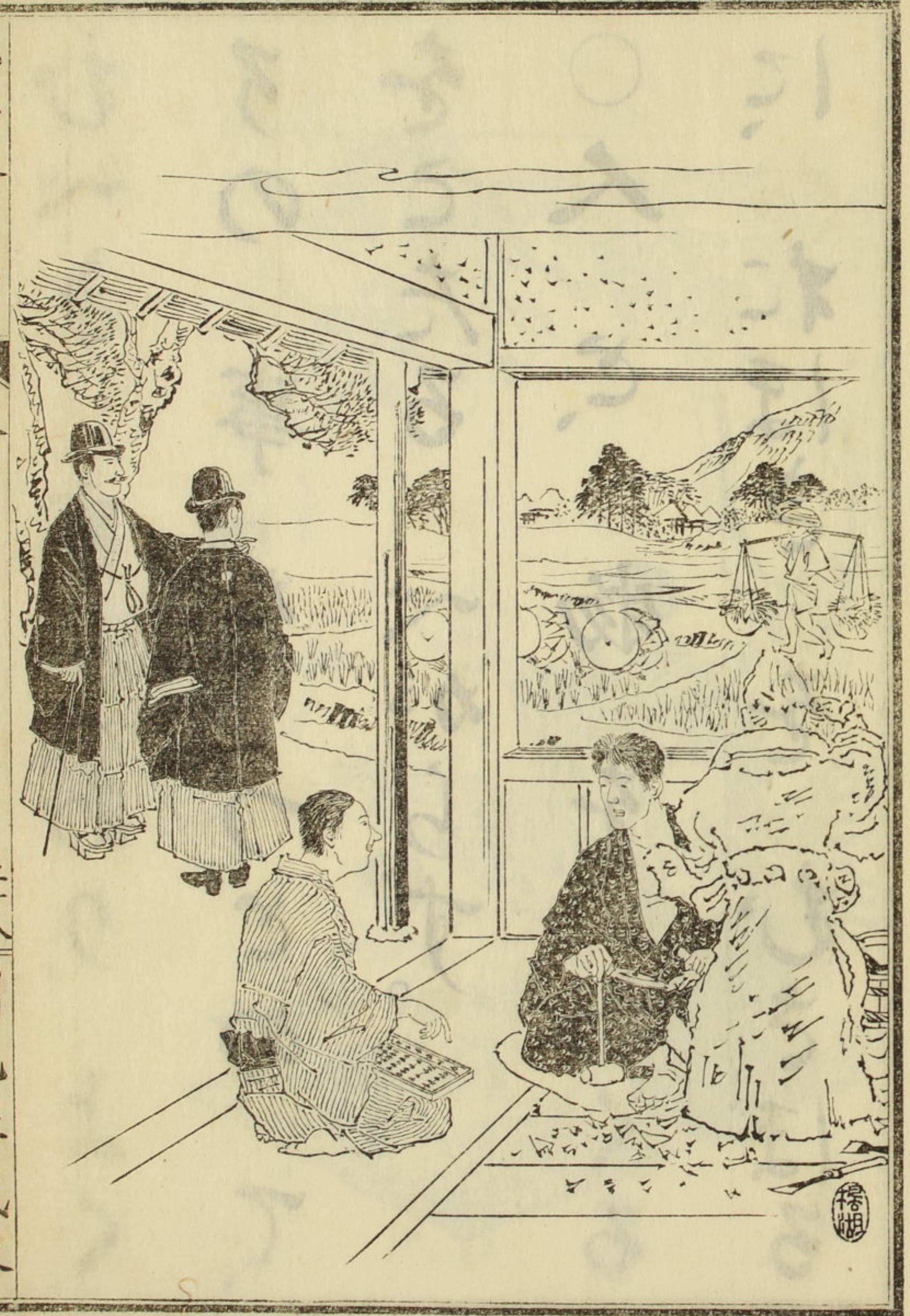
○あいこく 愛國

愛國

第八



○人はつねに禮儀  
 を、たゞしくせよ。禮儀  
 をしらぬは、ごりけ  
 ものにひとし。  
 ○人には、たのしく、務





むづき 事 あり。よく  
 ろの 事 を つとめて  
 をこたる べからず。  
 ○人と、物 を わくる  
 に、おほき を むさぼる





べからず。むさぼるもの  
は、人にいやまる。

○人と約束せば、か  
ならず、これにろむく  
べからず。また、あーき

約束は、はどめより、  
なすことなかれ。

○なにごとをなすに  
も、くるーきことに入  
であふことのあるべし。



これを、のばざる。と  
 きは、すぐれたる人  
 と、なりがたし。  
 ○なにごとも、人の  
 力を、のみ、たのむべか





らず。たのれの、なりう  
べきかぎりは、かなら  
ず。自<sup>ニ</sup>つとむべし。

小學修身書卷之一終

明治廿五年六月十五日印

全。七月十三日出

明治廿六年八月十三日

全。八月十七日

刷 定價金七錢八厘

版

訂正再版印刷

訂正再版發行

著者 伯爵 東久世通禧

東京市麻布區本町四丁目八番地

發行處 印刷者

西澤之助

東京市京橋區築地二丁目廿番地

版權 所有

發兌

國光社圖書部

東京市京橋區築地二丁目廿番地



